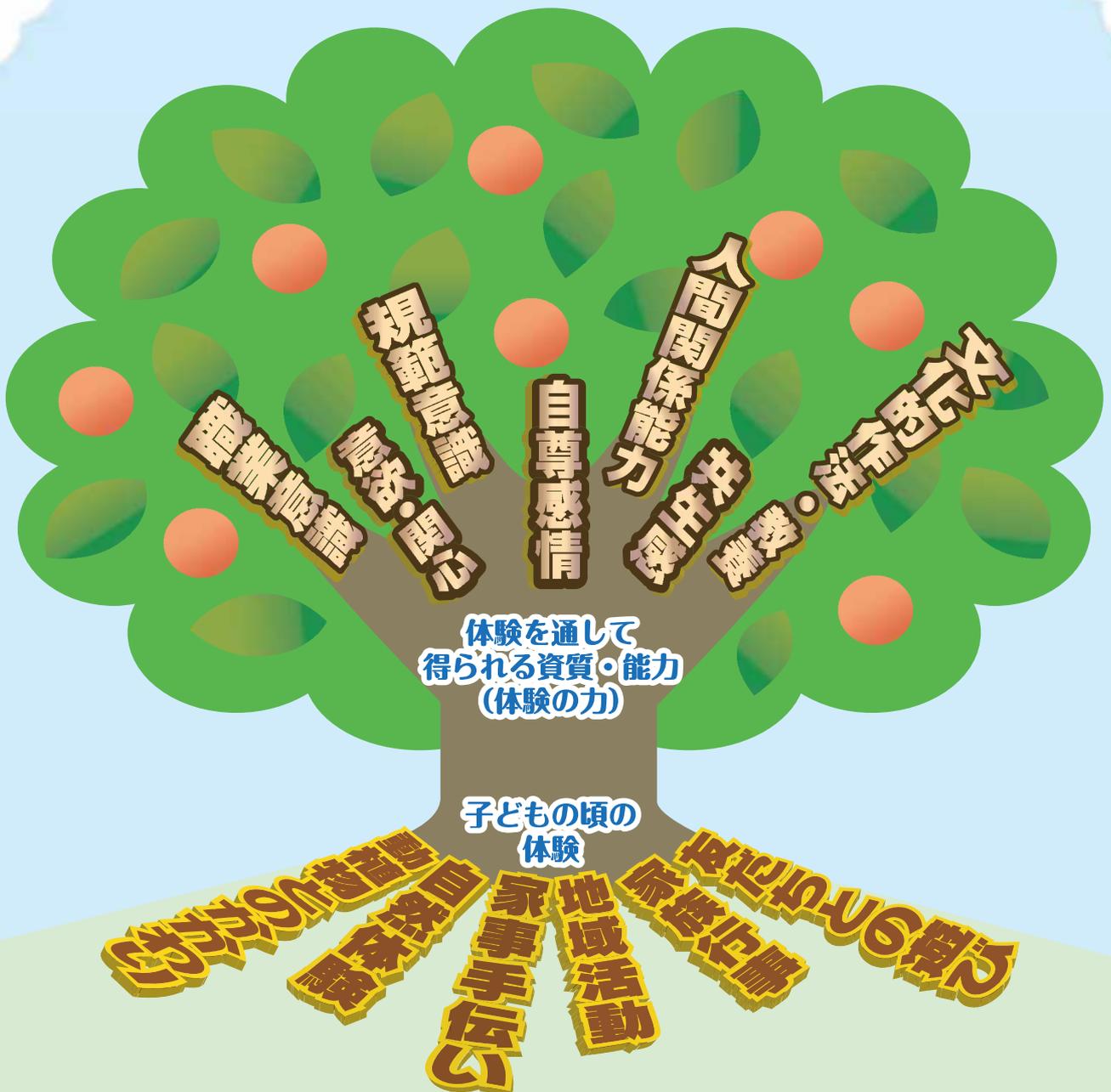




かわいい子には体験を!

—子どもの頃の体験は人生の基盤—

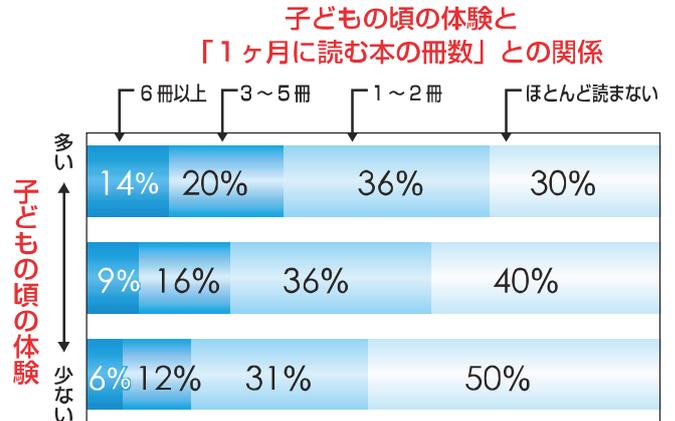
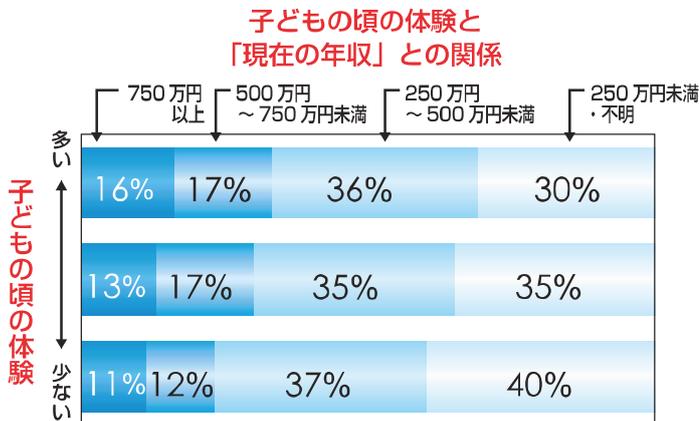
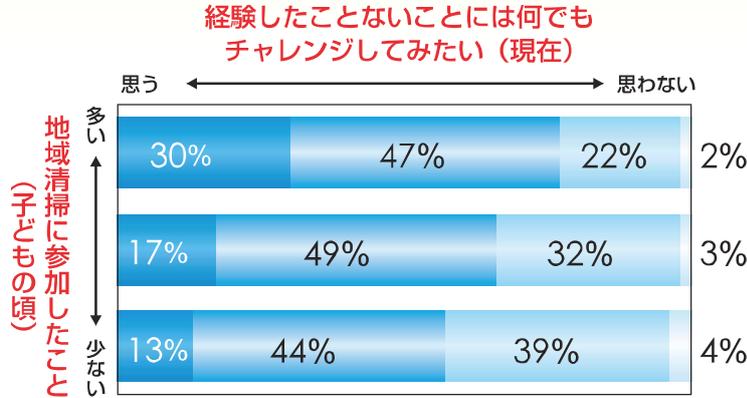


National Institution For Youth Education

独立行政法人 国立青少年教育振興機構

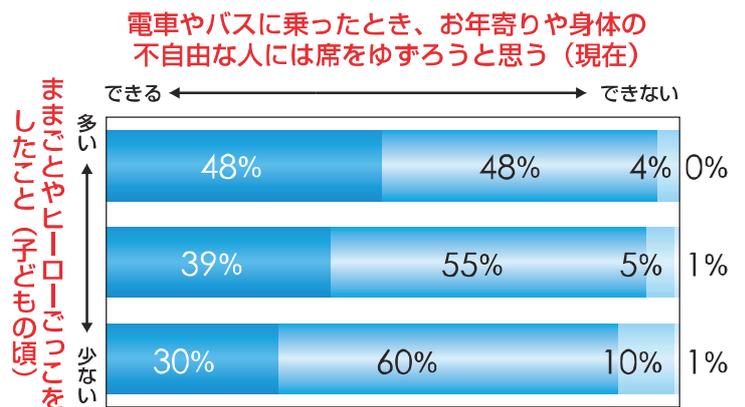
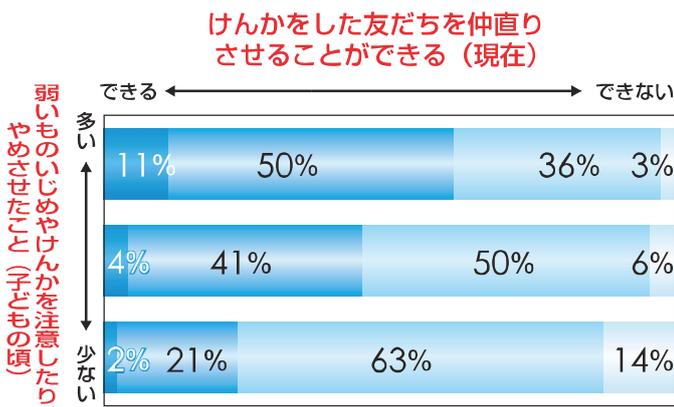
子どもの頃の体験は豊かな人生の基盤になります

子どもの頃の体験が豊富な人ほど、大人になってからのやる気や生きがい、モラルや人間関係能力などの資質・能力が高い傾向があります。また、そうした子どもの頃の体験が豊富な人ほど、現在の年収が高く、1ヶ月に読む本の冊数も多くなる傾向にあります。



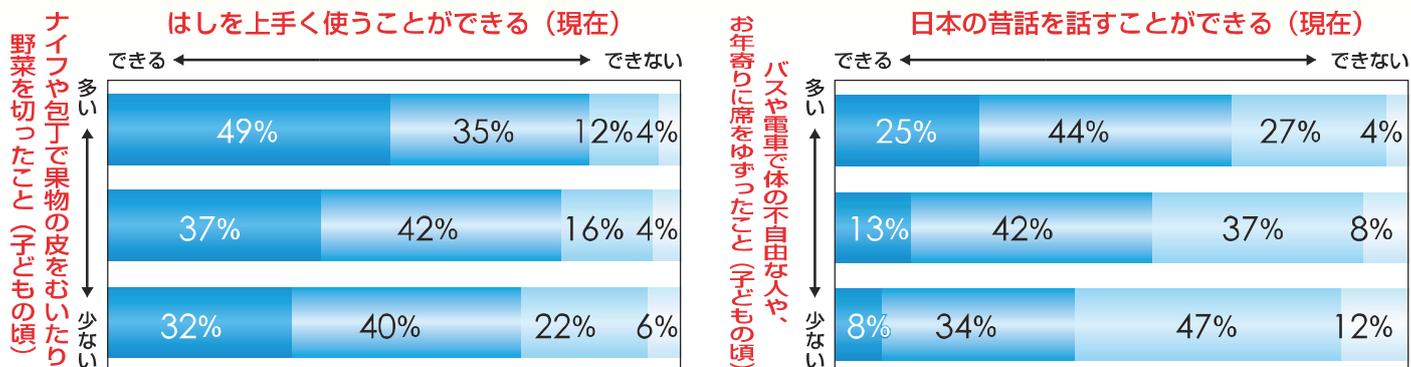
子どもの頃は家庭や地域などで様々な体験をすることが大切です

「弱いものいじめやけんかを注意したり、やめさせたこと」が多いほど、「けんかをした友だちを仲直りさせることができる」、というように相互の関連が見いだしやすい項目の間だけでなく、「ままごとやヒーローごっこをしたこと」と「電車やバスに乗ったとき、お年寄りや身体の不自由な人には席をゆずろうと思う」といった、直接の関連が見出しにくい項目の間にも相関関係が見られます。大人になってからの資質・能力は、家庭や地域における子どもの頃の様々な体験と関係しています。



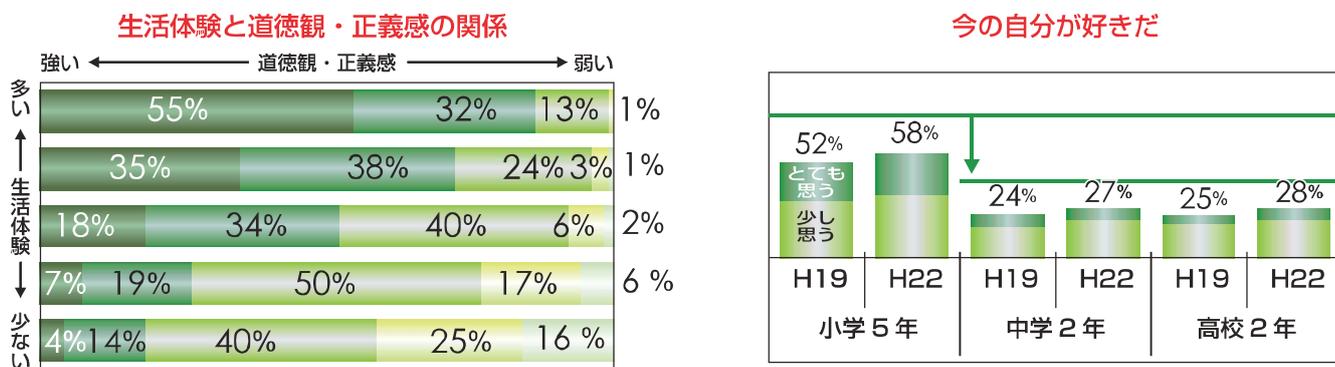
日本の伝統的な作法や教養も子どもの頃の体験と関係しています

日本の伝統的な作法や教養も、自然体験、動植物とのかかわり、友だちとの遊び、地域活動、家族行事、家事手伝いなどの子どもの頃の幅広い体験と関係しています。



中学生になってもお手伝いや地域活動が効果的です

体験が豊富な青少年ほど道徳観・正義感が強い傾向にあります。また、中高生は小学生に比べて、自己肯定感が低くなっていますが、体験が多い青少年ほど、自己肯定感が高い傾向にあることもわかっています。中高生は、勉強や部活で忙しいかも知れませんが、体験は大切です。

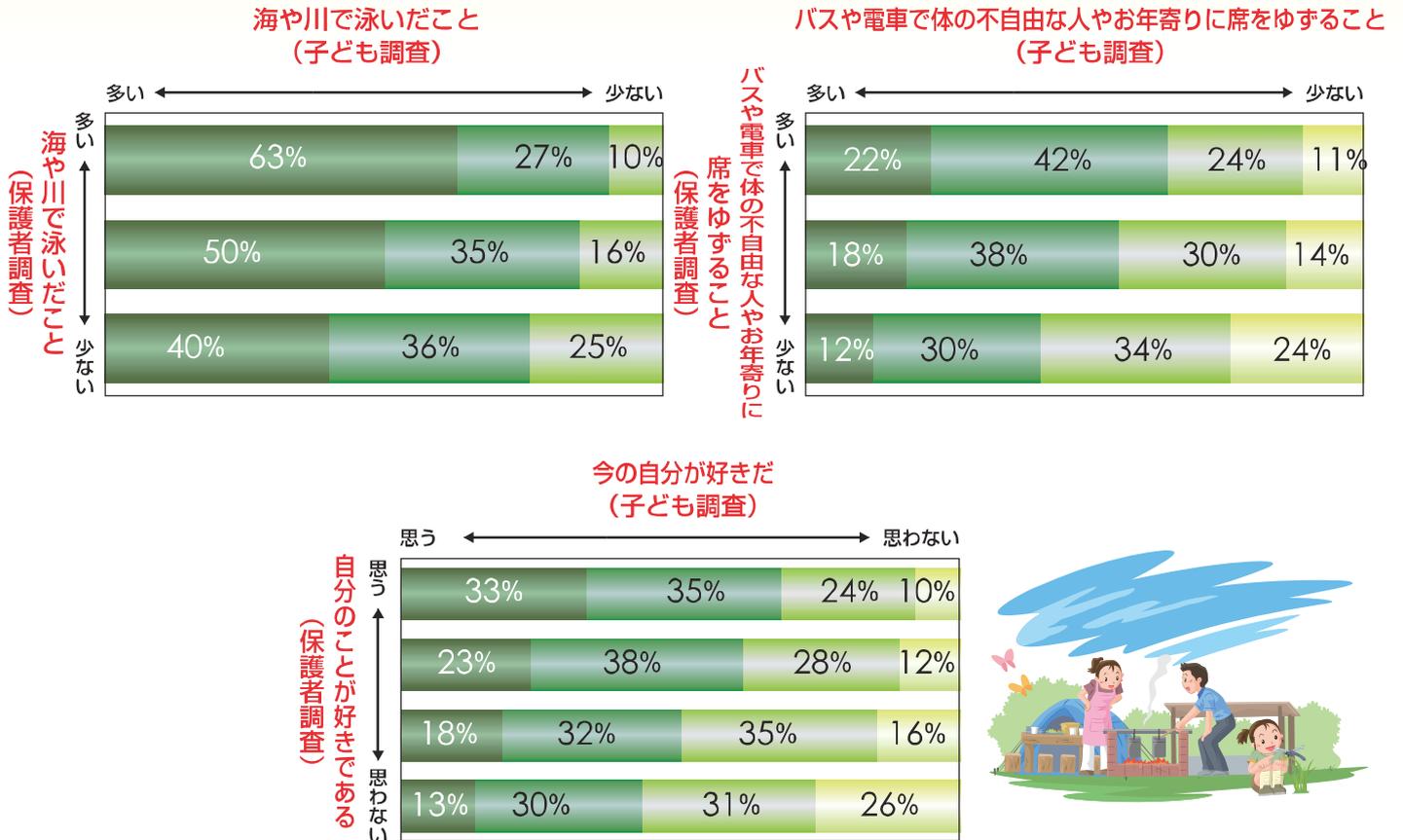


国立青少年教育振興機構では、子どもの頃の体験（自然体験、動植物とのかかわり、友だちとの遊び、地域活動、家族行事、家事手伝い）によって、得られる資質・能力（自尊感情、共生感、意欲・関心、規範意識、職業意識、人間関係能力、文化的作法・教養）について調査研究会（座長 明石要一 千葉大学教育学部教授）を設け、成人（20代～60代 5,000人）を対象に調査を実施しました。あわせて、青少年の自然体験、生活体験・習慣の実態や自立に関する意識等について、青少年（小学校4年生から高校生約19,000人）を対象に実施した調査結果についても提示しています。

出典：「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」、「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」

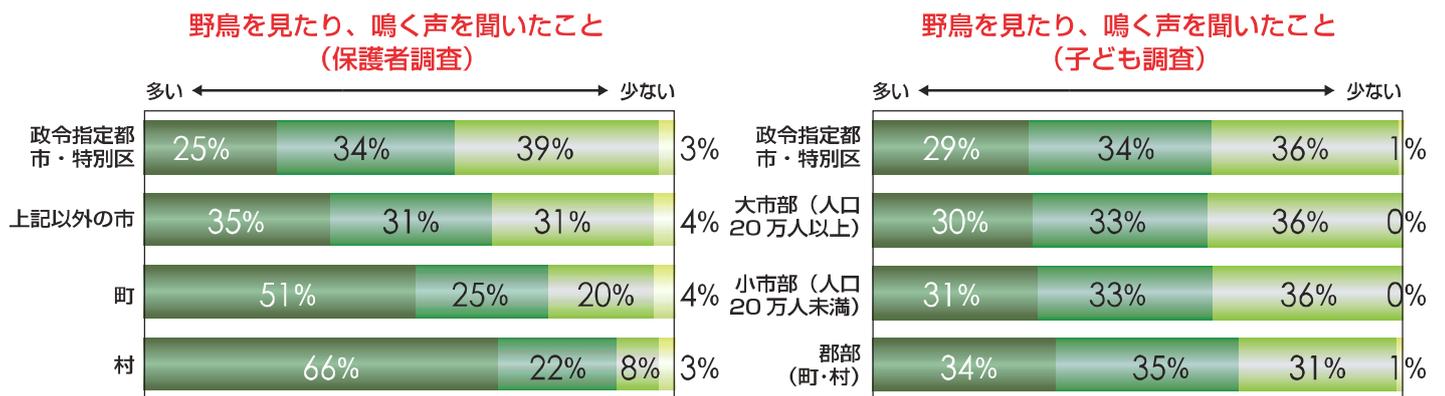
子どもの体験や意識は、親の体験や意識と関係しています

子どもの頃に多く体験を行ってきた保護者ほど、その子どもも体験を多く行う傾向にあることがわかりました。また、自己肯定感の高い保護者ほど、その子どもも自己肯定感が高い傾向にあるなど、保護者の体験や意識は子どもに大きな影響を与えています。



現在の子どもたちは、住んでいる地域による体験の差はほとんどありません

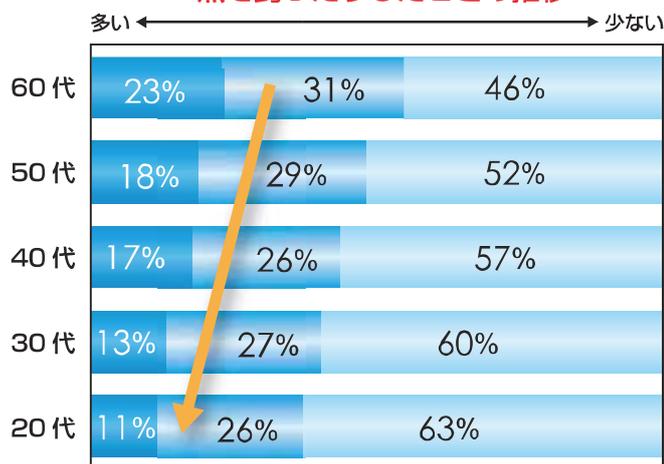
保護者が子どもの頃に自然体験を行った頻度は、中学生期までの居住地の種類によって違いが見られましたが、現在の子どもたちの自然体験については、居住地の種類による違いはほとんど見られませんでした。



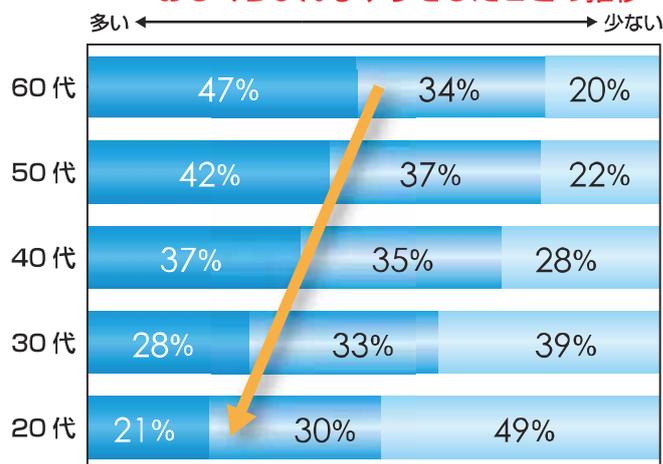
自然体験や友だちとの遊びが減っています

60代から20代まで、年代別に調査を行ったところ、自然体験や友だちとの遊びが、若い年代ほど減っていることがわかりました。

中学生の頃に海や川で貝を採ったり
魚を釣ったりしたことの推移



小学校4～6年生の頃にすもうや
おしくらまんじゅうをしたことの推移



みなさんは、どんな体験をしていますか？
家族や友だちと一緒に、イラストを見ながら
普段の体験をチェックしてみましょう！

★ チェック！



自然の中で活動する



友だちと遊ぶ



動植物の世話をする



地域の行事に参加する



家族で行事を行う



家のお手伝いをする

「体験の風をおこそう」運動®を推進しています

国立青少年教育振興機構では、
社会全体で体験活動を推進する機運を高める運動を
他の青少年団体と連携し進めています。
近年、社会が豊かで便利になる中で、
子どもたちの自然体験、社会体験、生活体験などの
体験が減少している状況をふまえ、
子どもたちの健やかな成長にとって、
体験がいかに大切であるかを
広く家庭や社会に伝えていきたいと思ひます。



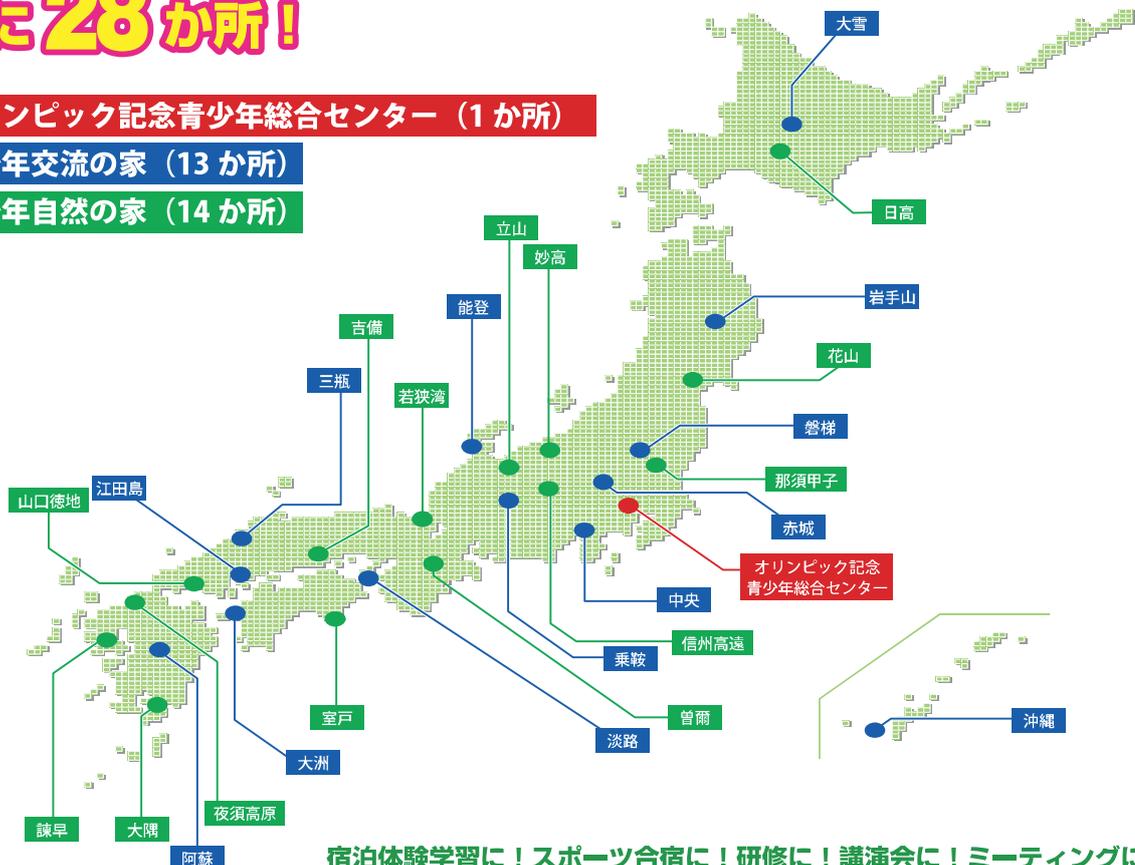
「体験の風をおこそう」運動
イメージイラスト
(作：漫画家・松本零士氏)

青少年の体験活動をサポートする国立青少年教育施設が 全国に28か所！

国立オリンピック記念青少年総合センター (1か所)

国立青少年交流の家 (13か所)

国立青少年自然の家 (14か所)



宿泊体験学習に！スポーツ合宿に！研修に！講演会に！ミーティングに！



National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3番1号
青少年教育研究センター / 総務企画部調査・広報課
<http://www.niye.go.jp> TEL 03-6407-7742

[くわしくはこちら](#)

青少年機構

検索

子どもの頃の読書は豊かな人生への第一歩

～読書好きの子どもは積極的～



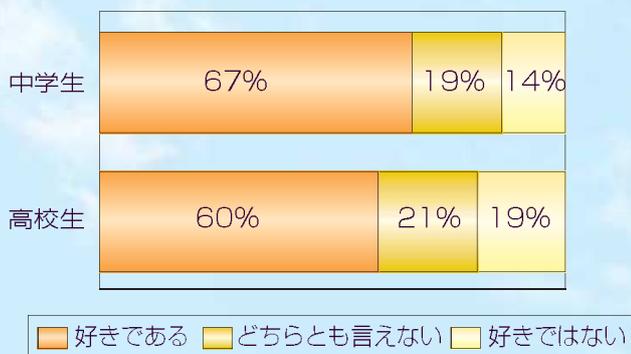
National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構



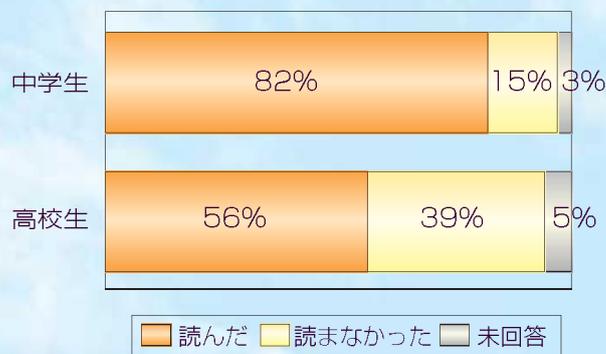
多くの中高生や大人は、読書が好きです

多くの中学生や高校生は、読書が好き、この1か月で本を読んだと回答しています。また、多くの大人も読書が好き、1か月に1冊以上本を読んでいると回答しています。

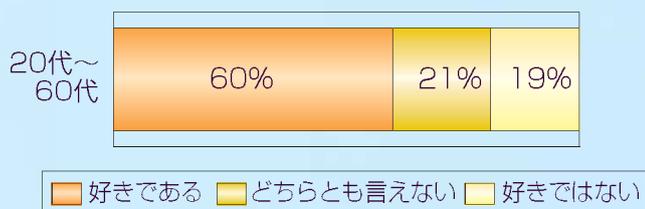
読書が好きですか（青少年）



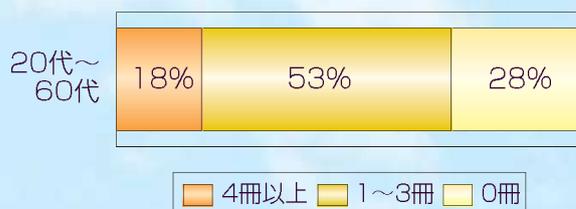
この1か月で本を読みましたか（青少年）



読書が好きですか（大人）

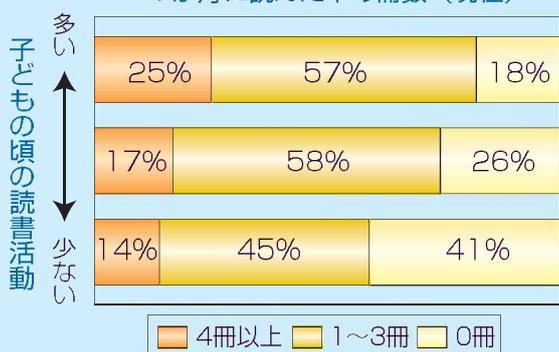


1か月に何冊ぐらい本を読みますか（大人）

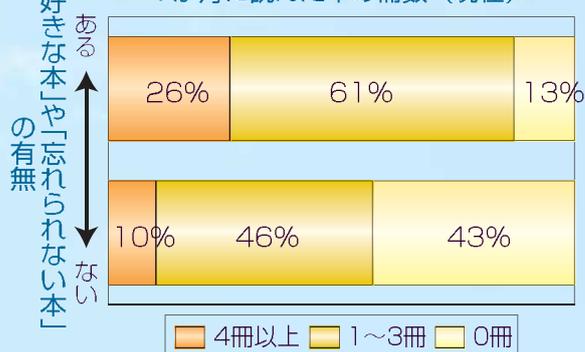


子どもの頃（就学前から中学時代）に読書活動が多かった大人や、これまでに「好きな本」や「忘れられない本」があると回答した大人は、1か月に読む本の冊数が多い傾向があるとともに、子どもにも読み聞かせをするなど、読書活動をとおした子どもとの関わりが多いこともわかりました。

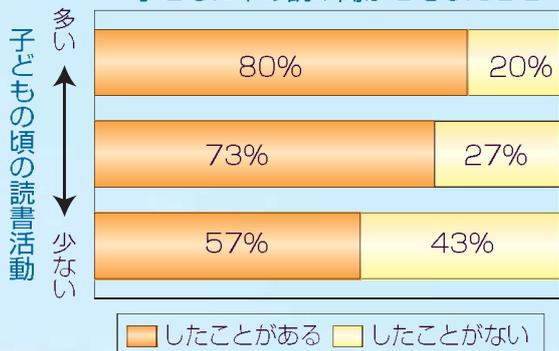
1か月に読んだ本の冊数（現在）



1か月に読んだ本の冊数（現在）



子どもに本の読み聞かせをしたこと



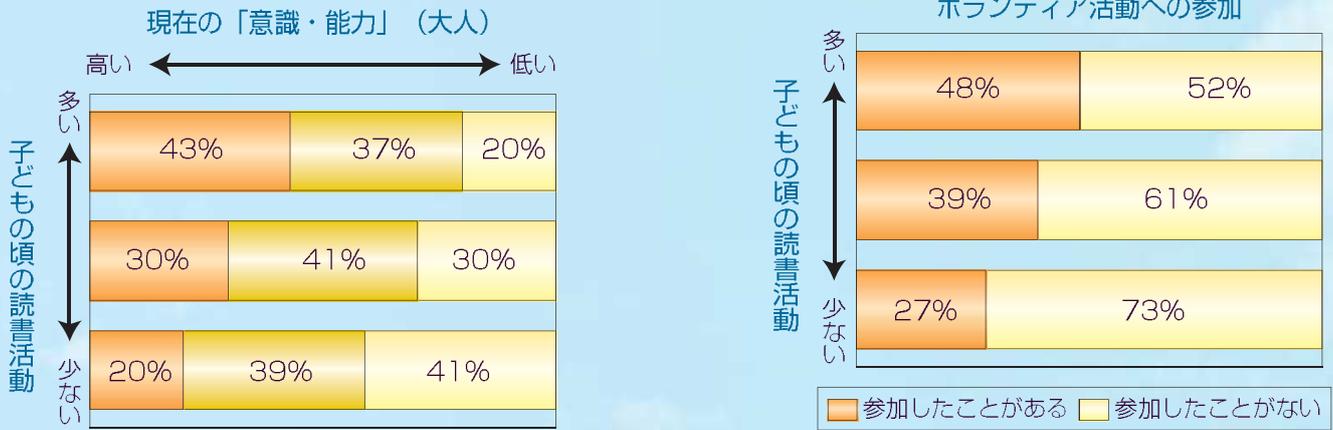
《読書活動に関する質問》

- ・家族から昔話を聞いたこと
- ・本や絵本の読み聞かせをもらったこと
- ・絵本を読んだこと
- ・本を読んだこと
- ・マンガを読んだこと
- ・地域の図書館で本を借りたこと
- ・地域の図書館で調べものをしたこと



子どもの頃の読書は、人生を豊かにします

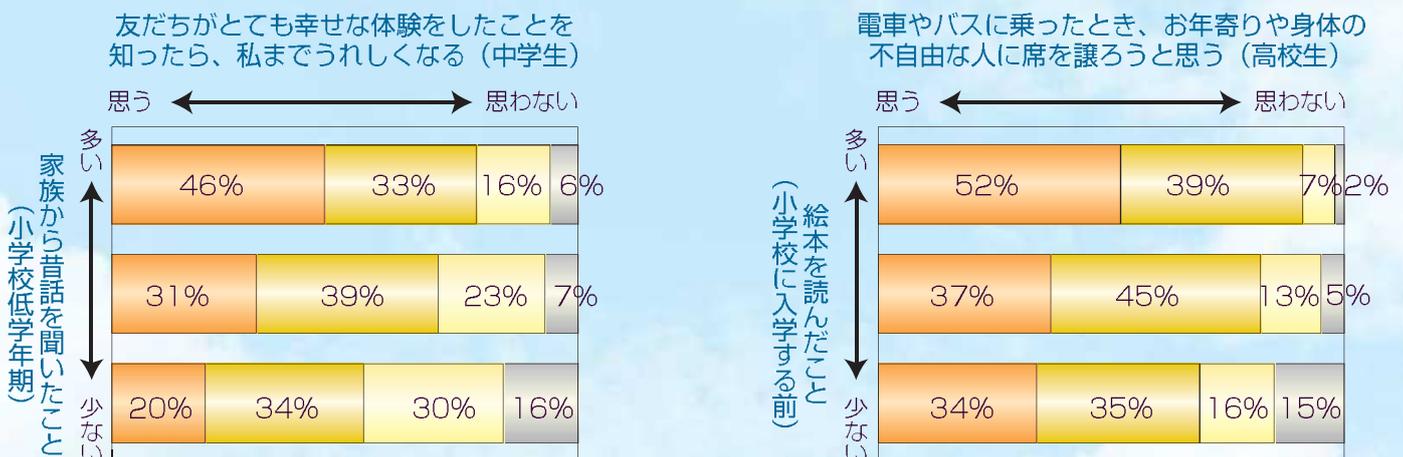
子どもの頃の読書活動が多い大人ほど、未来志向や社会性などの「意識・能力」が高いことがわかりました。また、子どもの頃に読書活動が多い大人ほど、ボランティア活動に参加している人が多い傾向にあります。



《「意識・能力」に関する質問項目例》

未来志向	職業意識	・できれば、社会や人のためになる仕事をしたいと思う など	社会性	共生感	・友だちがとても幸せな体験をしたことを知ったら、私までうれしくなる など
	将来展望	・私には将来の目標がある など		規範意識	・電車やバスに乗ったとき、お年寄りや身体の不自由な人に席を譲ろうと思う など
	自己啓発	・自分の能力を発揮するために学習や能力開発に取り組みたい など		人間関係能力	・友達に相談されることがよくある など
自己肯定	自尊感情	・自分のことが好きである など	意欲・関心	・なんでも最後までやり遂げたい など	
	充実感	・自分の好きなことがやれていると思う など		文化的作法・教養	・日本の昔話を話すことができる など
市民性	・新聞やテレビ、インターネットで政治に関する報道を閲覧・視聴する など				

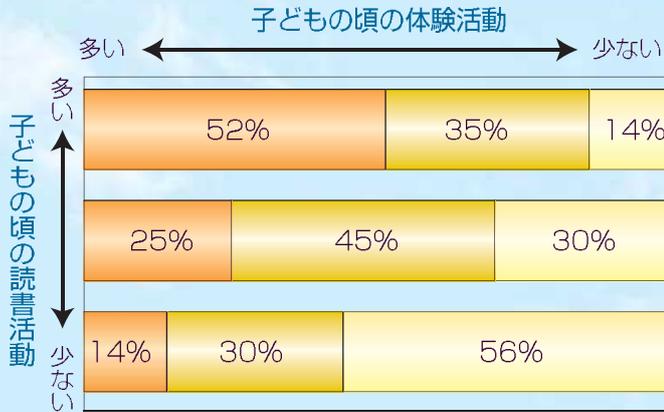
また、大人と同様に、子どもの頃（就学前から中学時代）の読書活動が多い中学生や高校生ほど、現在の「意識・能力」が高いことがわかりました。例えば、小学校に入学する前や低学年に読書活動が多かった中学生や高校生は、人を思いやる気持ちや社会のルールを守る意識などの能力が高い傾向があります。





読書と一緒に体験も大切です

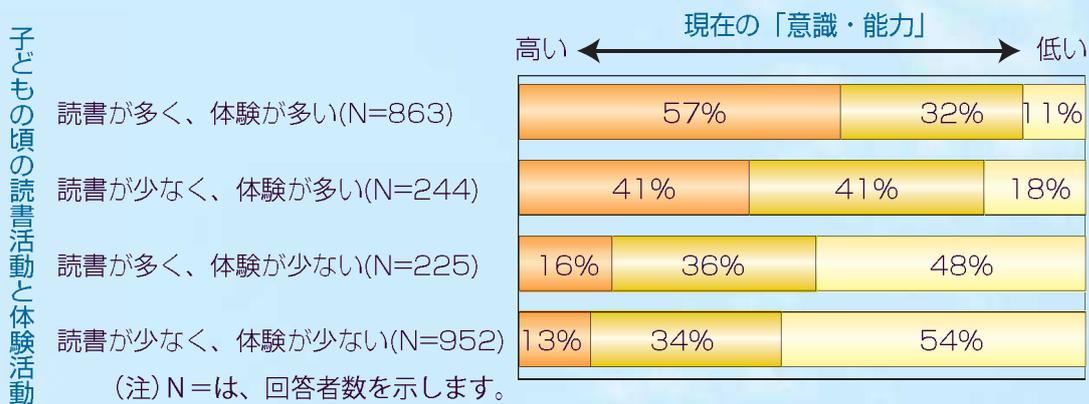
子どもの頃に読書活動を多く経験した大人は、同時に子どもの頃の体験活動も多く経験している傾向があります。



《体験活動に関する質問項目例》

[自然体験] ・海や川で貝を採ったり、魚を釣ったりしたこと など	[動植物とのかかわり] ・蝶やトンボ、バッタなどの昆虫をつかめたこと など
[友だちとの遊び] ・ままごとやヒーローごっこをしたこと など	[地域活動] ・近所の小さい子どもと遊んであげたこと など
[家族行事] ・家族で家の大掃除をしたこと など	[家事手伝い] ・食器をそろえたり、片付けたりしたこと など

また、子どもの頃に読書活動と体験活動の両方とも多く経験した大人ほど、大人になってからの「意識・能力」が高いことがわかりました。読書活動も体験活動も両方行うことが大切です。



国立青少年教育振興機構では、「子どもの読書活動と人材育成に関する調査研究会」を設置し、成人の読書活動の実態や現在の意識・能力、さらには、子ども（特に中高校生）の読書活動の実態や現在の意識・能力を把握し、子どもの読書活動の推進に資する資料を収集することを目的とした調査を実施しました。

これまで、民間団体等で読書活動の実態に関する調査は行われていましたが、当機構では、子どもの頃の読書活動が、成長してからの意識・能力に及ぼす影響や効果などについて初めて調査を実施したところです。

調査の詳細情報は当機構ホームページをご覧ください。(http://www.niye.go.jp/kenkyu_houkoku/contents/detail/i/72/)

